

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○新学習指導要領を踏まえ、キャリア教育の視点による小中高一貫した教育課程の編成と、人権の視点に立った教育実践を推進する。	①「わかる授業」実践を積み重ねることで、教育課程の再編を進める。 ②人権教育課題に即して学習を進め、本校の人権教育を整備する。	①清掃学習を取り上げて授業内容の見直しを図る。①清掃技能段階表を作成、活用する。 ②「いじめ」「いのち」「かかわり」「あいさつ」などテーマに沿った学習の成果を学部ごとに集める。 ②学習の成果を学校外に公開する。	①授業内容を見直しができたか。 ①清掃技能段階表を作成し活用したか。 ②学習成果数。 ②公開できたか。	①清掃技能検定マニュアルや清掃技能段階表を使った清掃学習や清掃学習の課題分析取組み表を使用した授業など、系統性を踏まえて各学部の教育課程に位置付ける見直しをすること、さらに新学習指導要領の資質・能力の三つの柱と目標、評価を含めた指導案の書式に改定することで「わかる授業」をめざした。 ②児童生徒の生活年齢や発達の段階にあわせて学部ごとにテーマを設定し、「授業デザインチェックリスト」を全授業で活用して取り組んだ。「単元配列表」「アセスメント」「環境整備」「ICT推進」「研究推進」の5つのプロジェクトチームを作り、指導案作成や教材選定、指導環境整備、ICT活用、教員啓発に取り組んだ。公開研究発表会では、知的障害のある児童生徒が安心して自己表現できる環境や、互いに認め合う場面を設定した授業を公開し、外部の意見をもらうことで、自尊感情を高めるための授業改善を図ることができた。	①今後は実際の授業を取組む中で学習内容(何を、いつ、どこで、どう学ぶか)を整理し、シラバスを作成する事で「わかる授業」を目指す。 ②人権課題に沿った3観点(技術的側面、価値・態度的側面、知識的側面)を評価基準とした単元を計画し、人権意識や挨拶、コミュニケーションスキルが身に着くよう継続指導する。	保護者アンケート：「教育実践」についての肯定的評価 98% 学校運営協議会：課題分析表は今年度の具体的な成果である。 プロジェクトチームを作ることで、全校をあげて人権教育を推進する良い取組となった。	①清掃学習において課題分析取組表や清掃技能検定に沿った指導を取り入れることで成果を上げた。 ②人権教育のねらいを踏まえた授業を教員一人ひとりが意識して取り組むことができるようになった。	①学習内容を整理し、取り組みやすいシラバスを作成する。また各行事の在り方について整理する。 ②授業デザインチェックリストを継続して活用し、自尊感情の育成を図る。また人との関わりや挨拶などについて、児童生徒の自発的な行動を促すための取組を継続する。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	○一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。 ○交流および共同学習を通して、共に成長することを旨とした教育活動を実践する。	①アセスメントを活用することで、根拠ある指導・支援を進める。 ②パラスポーツや模擬投票、防災教室などを活用し交流及び共同学習を進める。	①アセスメント結果を共有し個別教育計画に反映させる。 ①フロントゼロなどの学習環境整備を進める。 ②パラスポーツ、模擬投票、防災教室などを題材として取り上げる。 ②交流学习、共同学習を実施する。	①アセスメント実施数及び個別教育計画作成に利用した数。 ①フロントゼロ教室数。 ②実施数。 ②交流実績数。	①小・高・分は専門職が授業見学後に担任と打ち合わせを行い、一学期に太田ステージの結果を個別教育計画の作成に反映させた。フロントゼロについてはほとんどの教室で実施できた。「アセスメント研修会」「摂食研修会(全3回)」「本校職員作成の教材教具展示(夏：教材展示[19教材]、冬：教材プリント掲示[25教材])」「希望者対象の実践紹介学習会(合計37名参加)」等を実施。その結果より客観的に児童を見立てて教員間で共通理解したうえで、個別教育計画に反映することができた。 ②中学部は城郷中学と交流学习を実施。分教室は新栄高校と合同で、体育祭、文化祭を実施した。東本郷小学校との交流では小学部全児童の作品を使って作品交流を実施した。居住地交流は今年度8名の児童が実施した。各交流を通して子ども同士の相互理解を図った。	①アセスメントの実施とともに、授業や活動にどう生かされているかを、保護者にもわかりやすくタイムリーに共有していく。 ②本校はポストコロナを見据えた交流及び共同学習を進める。分教室は新栄高校と生徒同士・教員同士の交流をさらに進める。	保護者アンケート：「アセスメント活用」についての肯定的評価 100% 学校運営協議会：客観的な指標を使うことで、教員による実態把握にずれが生じにくくなる。アセスメント活用による子どもの変化がより具体的にわかるとよい。 交流・共同学習を計画的に進めていきたい。	①全校でアセスメントを実施し、結果を個別教育計画に反映させて、保護者と共通理解を図りながら指導を行うことができた。 ②コロナ渦においても、居住地交流や共同学習を実施することができた。回数を増やし、計画的かつ継続的に実施したい。	①アセスメントが授業や活動にどう生かされているかを保護者にもわかりやすく、タイムリーに共有する。 ②パラスポーツや造形活動、音楽活動など、学習範囲を広げ、子どもたちの相互理解と成長を促す学習を計画していく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○児童・生徒一人ひとりの将来の生活の充実を目指し、自立と社会参加に向けた進路指導・支援を行う。	①学校全体で進路に関する実践を系統的な学習として整理する。 ②進路情報や支援情報を発信することで進路指導につなげる。	①児童生徒の進路学習と、保護者の進路に関する学習会や研修会のスケジュールを明確に示す。 ②進路情報、支援情報を学校だよりやホームページ、ミニ学習会で発信する。	①示すことができたか。 ②学校だよりやホームページ掲載数。学習会開催数と参加者数。	①9月に「進路の手引き」を配付し、保護者会や見学会、生徒自身の進路学習の年間スケジュールを提示した。校内実習の目標を、学年ごとに発達段階に応じた目標となるよう見直した。 ②「みどり相談室」に「学習会」をセットにして年間9回、テーマを決めて計画した。告知や申込にホームページを活用し、1学期は3回、2学期は4回、3学期は特設の学習会を加えて3回実施し、のべ68名の保護者が参加した。小学部の保護者も多く、関心の高さが示された。学校だよりでも、進路や教育相談に関する情報を掲載している。3月6日に小中学部保護者対象進路学習会を実施予定。	①「進路の手引き」の配付時期についてはスケジュールを早めに周知できるように、年度の始めに配付できるようにする。 ②次年度もテーマを決めて実施する。進路や支援に関する情報発信について、ホームページをより一層活用しながら配付物と併用する。	保護者アンケート：「個に応じた進路情報の提供」についての肯定的評価 89%	①児童生徒の発達段階やニーズに応じた情報を進路学習会や「進路の手引き」などで提供することができた。 ②「みどり相談室」は参加者が多く好評だった。今後も継続する。	①保護者が将来への見通しをもつことで、より保護者のニーズに合った情報を、ケース会や学習会等を通して提供する。 ②テーマによる参加人数の増減を参考に、次年度のテーマを検討する。
4	地域等との協働	○共生社会の実現に向け、障害のある子どもと障害のない子どもの相互理解や地域への理解を広げるために、地域と連携し、開かれた教育活動を展開する。	①清掃学習やパラスポーツ、実習を利用し地域交流や地域貢献する。 ②地域や関係機関と協力し、ボランティアを充実させる。 ③センター的機能を使って地域支援の充実を図る。	①地域や関係機関と連携し、交流や校外活動を実施する。 ②ホームページを活用したボランティア募集状況について発信する。 ③各種連絡会や協議会、ホームページの活用等を通じて、本校のセンター的機能について情報発信し、地域の支援機能の向上を図る。	①実施数。 ②ボランティア数。 ③地域支援数と内容。	①地区センターでの折り鶴プロジェクトの参加、作業学習での農園芸班が東本郷公園愛護会と連携し花壇等の清掃美化の取組、郵便局と連携し美術の作品展示ができた。地域のプロスポーツチームや文化芸術団体と連携し交流授業を実施した。分教室では計18回(3学期に4回)、スーパー、図書館、地区センター、小学校、福祉事業所で作業学習を実施。 ②現在は小学部のリズム遊び、校外歩行、配膳下膳にボランティアは4名。高等部・分教室の模擬投票ではのべ6名のボランティアが参加。通学見守りボランティアは9名。 ③小中高のCo会議や小学校の特別支援教育研究会等に参加、小中学校への巡回相談を23回、小中学校の教職員向け研修会を3回実施、来校相談は5件。巡回相談では教材貸し出しを行った。公開研修会を4回実施。テーマは「卒業後の進路先」「性教育」「外国にルーツのある子どもの支援」「太田ステージ」。参加者総数284名(本校教員212名、保護者24名、外部参加者48名)。	①生徒が地域に出て活動するのにふさわしい場所を今後も継続して模索していき、活動の範囲を広げる。 ②ボランティアを充実させるための方法として、介護等体験生や教育実習生への声掛けも含め、様々な発信方法について検討する。 ③作品展示の依頼が増えるに伴い、学部ごとのバランスをはかることや美術担当者との連携が課題になっている。助言や紹介する教材の内容などブラッシュアップし、巡回相談時に役に立ちそうな資料を整備する。公開研修会は、進路先などのより関心の高い研修テーマを設定する。	保護者アンケート：「学校の情報発信」についての肯定的評価 92% 学校運営協議会：様々な団体や地域との関係を継続し活動を進めていってほしい。	①地域の各種団体との連携した活動は継続していく。児童生徒の様子から活動の成果を導くようにする。 ②社会福祉協議会や自治会と連携してボランティア獲得ができた。獲得のための発信について検討する。 ③小学校への巡回相談などが増えた。今後も教育相談業務の充実を図っていく。	①生徒の社会性を高める経験を積めるよう、活動後の振り返りを次の活動に活かす。 ②自治会の掲示板や回覧の利用、介護等体験生や教育実習生への声掛けを増やす。 ③助言や紹介する教材の内容などブラッシュアップする。
5	学校管理 学校運営	○安全・安心や児童・生徒の健康を第一に考え、指導体制や管理体制の構築を図る。 ○児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る	①必要な感染症対策を講じ、学習活動に制限をかけないようにする。 ②DIGを活用した防災訓練を行う。 ③Teamsの諸機能を利用しグループ業務の効率化を図る。	①校内外での感染症対策を確認して活動計画を立てる。 ②DIGを活用して感染症対策を講じながら訓練を実施する。 ③全てのグループ、チームでTeamsの使用について検討する。	①活動数。 ②訓練実施実績。 ③使用実績。	①校内・校外の感染予防対策に基づいて日々の教育活動を進めることができた。 ②登校時に大きな地震が発生したという想定で実効性のある訓練ができた。学年単位で予想される児童・生徒の状況と対応策の共有ができた。また、避難訓練時の反省として避難経路の再整備ができた。 ③Teams内でのアンケートやチャット機能を活用し、迅速な情報共有や意見交換を行うことができ、会議の精選に繋がった。	①次年度以降の教育課程にもアフターコロナの視点を踏まえた内容を検討していく。 ②災害時を想定した教員の動きがさらにイメージしやすい訓練を実施していく。 ③情報がどこまで共有されたか把握できるように、対応リアクションを活用していく。チャットと対面での会議と使い分けていくようにする。	保護者アンケート：「感染症対策などの危機管理」についての肯定的評価 92% 学校運営協議会：学校評価の仕方について、何にどう有効だったかを評価してほしい。	①校内・校外の感染予防対策に基づいて日々の教育活動を進めた。 ②実効性のある訓練によって現実的な避難が可能となった。足りない物品などの課題も上がった。 ③Teamsのチャット機能で迅速な情報共有や意見交換を行うことができた。	①感染症対策は継続するが、アフターコロナの視点からの活動を実施していく。そのためには、限られた施設を有効活用するため整理整頓及び不要物品の廃棄を進める。 ②想定を変えながら次年度以降も継続して実施する。 ③リモートと対面を使い分けて効率よく機能的に業務をこなしたい。